

社会・演劇(戯曲)

而立書房 10月新刊のご案内

朗読劇 線量計が鳴る

元・原発技師のモノローグ

中村敦夫

装画・黒田征太郎

四六判並製128頁 本体予価¥1200+税 ISBN978-4-88059-411-8 C0074

**中村敦夫一人芝居、
100回公演をめざし、
全国ツアー中!**

中村敦夫(なかむら・あつお)

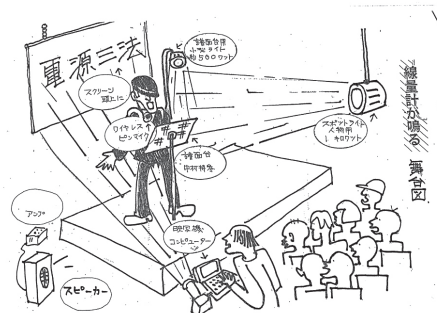
1940年東京生まれ。俳優、作家、日本ペンクラブ理事・元参議院議員。1972年放映の「木枯し紋次郎」が空前のブームになり、数多くのドラマで主演をつとめる。海外取材を基に書いた小説「チェンマイの首」がベストセラーとなり、国際小説ブームの火付け役となった。この成果から84年には、TV情報番組「地球発22時」のキャスターに起用される。政治的発言が多くなり、98年、参議院東京選挙区から立候補して当選。2000年、「さきがけ」代表に就任。02年には党名を「みどりの会議」に変え、日本最初の環境政党を作ろうと全国の組織化に奔走。07年から3年間、同志社大学院・総合政策科学研究科で講師を勤め、環境社会学を講義。現在は日本ペンクラブ理事、環境委員を務める。

もう一発やらかしたら、 日本列島はお終いだ!

原発の技術と問題点、被曝の危険性、福島第一原発事故の実態など、原発の基礎から今日の課題までを、原発事故ですべてを失った老人の語りから、分かりやすく伝えます。

ニュースキャスター、政治家、そしてなにより「木枯し紋次郎」として知られる中村敦夫さん。2011年の地震・原発事故以来、現実的な原発の危険性が一般に理解されるにはどうしたら良いのか考えてきました。試行錯誤するうちに思い立ったのが、朗読劇

という表現方法。一人で道具を背負い、日本各地で上演しているのが本作「線量計が鳴る」です。東北弁で語られる実証的な情報に、「学び」と「興味」が相乗し、公演は各地で満員御礼。小柄な本ですが、内容は濃密、重量級です。



10月中旬発売予定

貴店番線印

冊

朗読劇
線量計が鳴る

元・原発技師のモノローグ

中村敦夫

ISBN978-4-88059-411-8 C0074 予価¥1200 46判並製

而立書房

ご注文は **而立書房** まで
FAX 03-3292-8782

<http://www.jiritsushobo.co.jp>